

いわき市男女共同参画センター開所記念事業

# 男女共同参画推進 講演会より



## ～「妻が僕を変えた日」～

いわき市男女共同参画センターの開所を記念して、平成17年5月29日(日)、いわき市総合保健福祉センターにおいて、中央大学法学部教授の広岡守穂先生をお招きして講演会を開催しました。広岡先生の専攻は政治学ですが、最近は男女共同参画や市民のNPO活動に関心を寄せられており、NPO推進ネット理事長を務め、この4月から佐賀県立女性センターの館長もしていらっしゃいます。

\* \* \* \* \*

先生は、親の反対を押し切って学生結婚をしました。まだ若い核家族の夫婦が、お互いに悩みながら五人の子どもたちを育てた時の様子を、興味深いエピソードを交えながら、分かりやすく、親しみやすく語っていただきました。



例えば、主婦として三人の子育てに疲れを感じた妻が『半日…いや、2時間でも1時間でもいいから、子どもと離れて一人でいたい。』と思っていた時、先生は『母親はいつも子どもといたいはず』と思い込み、子育て中の夫婦の認識が微妙にずれていた事を明かしてくださいました。

また、妻に、「なぜ単刀直入にその気持ちを自分に打ち明けなかったのか？」と尋ねると、「その話が巡り巡ってあなたの母親に“子育てができない女だ”と思われたくなかったからはっきり言えなかった。」と答えます。両親と同居されている方も、核家族の方も、同じような悩みを持つ人は多いのではないのでしょうか？



この様なやりとりをとおして、「お互いに相手の事を理解しよう。子育ての責任を妻一人に押し付けるのはやめよう。」というように、先生の考えは徐々に変化していきます。

それまで、妻は、『社会の風に当たりたい』『自分の力を試してみたい』と言いながら、様々なチャレンジ、失敗を繰り返し、大きな不安を抱えていました。後に育児が一段落した際に、先生に依頼があった仕事を自分が引き受けて始めました。『これをきっかけにチャレンジしたい』という気持ちでした。そしてどんどん「自分育て」をしていく姿に先生は尊敬に近い気持ちを持ち始めます。

先生は、「人間と人間の関係が、本当に対等な、心の底でお互いに尊敬しあう関係を作っていきましょう。」と結ばれました。

\* \* \* \* \*

男女共同参画センターは、『何かをしたい!』という気持ちを持ち、「自分育て」をしようとする方が力をつけていくためのヒントや情報を得る重要な場所です。